

# 農作物技術情報 第7号の要約

平成24年 9月27日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>○刈り遅れは品質低下の原因となるので、刈り取りがまだの場合は早めに刈り取りを行う。</p> <p>○倒伏した圃場では、刈り分けにより品質確保等を行う。</p> <p>○日没が早まる時期なので、作業は計画的にすすめ、安全な農作業を心掛ける。</p>
畑作物	<p><b>大豆</b>: 平年より早く黄化・落葉が進み、収穫は早いところで10月上旬から。適期に収穫できるよう準備をすすめる。施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにする。</p> <p><b>小麦</b>: 小麦の播種適期となっている。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努める。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数を確保する。</p>
野菜	<p><b>生育状況</b>: 施設果菜類、露地果菜類とも高温乾燥やその後の気温の低下の影響等による草勢の低下や障害果の発生がみられる。露地葉菜類はねぎで乾燥による太りの遅れがみられる。雨よけほうれんそうでは高温による生育の停滞やしおれ、枯死がみられる。</p> <p><b>露地きゅうり</b>: 古葉や病葉の摘葉、不良果の摘果等による草勢回復及び病虫害防除は、褐斑病、炭そ病等の重点防除を行う。</p> <p><b>雨よけトマト、雨よけピーマン</b>: 今後も気象経過に応じたハウスの適切な温湿度管理で草勢維持をはかるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防やタバコガ類等の防除を徹底する。</p> <p><b>雨よけほうれんそう</b>: 年内収穫用にもう1作播種し、温度管理と病虫害防除を徹底する。寒締め栽培では、品種の特性に合わせ遅れないように播種する。</p> <p><b>露地葉菜類</b>: 適期作業に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。</p>
花き	<p><b>りんどう</b>: 翌年の病虫害発生を抑えるため、収穫後の病虫害防除と、残さ処理等収穫後の管理を徹底する。</p> <p><b>小ぎく</b>: 来年の栽培に向け品種構成を考慮し親株の伏せ込みを実施。伏せ込みには健全な親株の使用を徹底する。</p>
果樹	<p><b>生育状況</b>: りんごの果実生育は高温小雨の気象条件にもかかわらず平年並み。早生種の果実品質は高温の影響で着色の進みが遅れ果肉先行型となった。</p> <p><b>りんご</b>: 県オリジナル品種「紅いわて」は収穫期を迎えているので、採り遅れないこと。他の中生品種も適期収穫とすぐりもぎを徹底する。</p>
畜産	<p><b>牧草</b>: 維持草地では、刈り取り危険帯の時期を避け、刈り取りと施肥を行う。</p> <p><b>トウモロコシ</b>: 完熟期に近い圃場もあるので、熟期を確認し、速やかに収穫作業を進める。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○秋の農作業安全月間実施中(9月15日～11月15日)「農作業 笑顔の豊作 無事故から」

次号は平成24年10月25日発行の予定です

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 県内全域で刈り取り作業が進んでいます。刈り遅れは品質低下の原因となりますので、刈り取りがまだの場合は早めに刈り取りましょう。
- ◆ 倒伏した圃場では、刈り分けによる品質確保等を行ってください。
- ◆ 日没が早まる時期ですので、作業は計画的にすすめ、安全な農作業を心掛けましょう。

## 1 適期刈り取りの励行

刈り遅れるほど着色粒や胴割粒等の発生が多くなり、品質低下につながります。刈り取りがまだの場合は早めに刈り取りましょう。

## 2 農作業安全

日没が早まる時期ですので、計画的に作業をすすめ、農作業安全に心掛けましょう。

- (1) 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意する。
- (2) コンバインにワラ等が詰まった場合には、必ずエンジンを止めてから作業する。
- (3) 夕方の事故が多いので、休息をとりながら焦らず、慎重な作業を心がける。
- (4) 反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止する。

## 3 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は 15.0%以下を徹底しましょう！**

### (1) 胴割れ粒の発生防止

- ア 1時間あたりの乾燥速度(水分低下)は0.8%以下とし、送風温度に十分に注意する。急激な乾燥や過乾燥は避ける。
- イ 自然乾燥の場合、乾燥期間は2週間以内とし、乾燥が不十分な時は乾燥機で仕上げる。

### (2) 舂すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ア 玄米水分15.0%以下の適正水分で舂すりを行う(肌ずれ米の防止)。
- イ ロール間隔は、舂の厚さの約1/2(0.5~1.2mm)に調整する。脱ぶ率は85%を基準とする。

### (3) ライスグレーダー粒選別

出荷製品となる玄米は、LL(1.9mm)の篩い目を使用し、整粒歩合80%以上に仕上げる。

農作物技術情報第8号は10月25日(木)発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は秋の農作業安全月間**

**農作業 笑顔の豊作 無事故から**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 大豆 平年より早く黄化・落葉が進んでいますので、ほ場観察をこまめに行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。
- ◆ 小麦 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。ほ場条件が整わず適期を逃したほ場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

## 大豆

### 1 生育の状況

生育の早いところから黄化、落葉が始まっており、早いところでは10月上旬に収穫適期になります。まだ青々したところから落葉したところまで、ほ場によって差があるので、ほ場をよく観察し、刈り遅れないように準備をすすめましょう。

開花期以降の高温・乾燥の影響で、一部の地域では早くから葉の黄化、落葉が見られ、場合によっては一部の株が枯死する圃場も散見されています。このような株は登熟が十分進んでおらず、粒の充実が劣るものと思われます。圃場をよく観察し、明らかに登熟状況が異なる場合には、健全なものと分けて刈り取るようにしましょう。

### 2 収穫作業のまえに

#### (1) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

#### (2) コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。

また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

#### (3) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

### 3 収穫

#### (1) 成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

- ア ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている
- イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10 日後	30 日後	20～23 日
ユキホマレ	7～10 日後	20～25 日後	10～18 日
ナンブシロメ、スズカリ	10 日後	20～25 日後	10～15 日
リュウホウ	10 日後	20 日後	10 日
青丸くん	10 日後	16 日後	6 日間前後

※「青丸くん」は刈り遅れると子実の色抜けが生じることから、直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにする。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は 50%以下

茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で揉まれ、汚損粒の発生原因となります。茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。周囲の株と違い、青々として残っている株は必ず抜き取ってください。また、冠水や倒伏により莢に泥が付着したり、高温・乾燥により早くから落葉するなど、品質低下が懸念される場合は刈り分けを行いましょう。

イ 収穫時の子実水分は 18%以下

収穫時の子実水分は、損傷粒の発生に大きく影響します。子実水分が 20%以上と高すぎる場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下と低すぎる場合は、裂傷や割れ豆などの損傷粒が多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃までが目安です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもありますが、乾燥時にも発生することが知られています。土作り等で地力の維持に努めることや、乾燥時に急速な乾燥を避けることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

小麦

1 小麦の播種適期を迎えています

例年、播種が遅れ生育量が足りないまま越冬する小麦ほ場が多く見受けられます。適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期 (月. 日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9. 15	9. 25	11
県北部	9. 15	9. 30	16
県中部及び沿岸北部	9. 20	10. 5	16
県南部	9. 25	10. 20	26

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

- (1) 播種適期を守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合、無理に播種しても発芽不良になるだけですので、その場合は作業を見合わせましょう。
- (2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から 1 週間遅れるごとに 10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう。
- (3) 県中南部で播種時期が 11 月に入るような場合は冬期播種に切り替え、12 月以降に播種を行います。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/m <sup>2</sup> )	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80% (全面全層播は64%) として求めた。

### 3 冬期播種

冬期播種のイメージをまとめたものを表4に示しました。

冬期播種を行った小麦は、雪解け後から出芽を開始し、出穂・開花は1週間程度遅れるのが特徴です。播種量、基肥とも秋まき小麦よりも多くなります。

冬期播種は基本的に県中南部の排水条件が良好なほ場を想定しています。雪解けが遅かったり、排水条件が整わないほ場はおすすめできません。

表4 冬期播種栽培の技術体系

月	10		11			12			1	2	3			4			5			6	7		
旬			上	中	下	上	中	下			上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下
作業等	①	②	②			④⑤					← 出芽期			← ⑥			← 出穂期				← ⑧ 成熟期		
作業の種類	作業内容											作業上の留意点											
①排水対策	額縁明渠、心土破碎、圃場内排水溝											特に初年目転換田では、湿害防止のため排水対策は必ず実施する。砕土率向上のため排水の良好な圃場では、耕起・砕土は数回実施する。また、冬雑草抑草のため、耕起・砕土から播種までの間をあけすぎないこと。											
②耕起 砕土	プラウ耕、ロータリー耕 ハロー耕																						
③種子消毒	浸漬処理、塗沫処理											主に雪腐病を対象とする。											
④施肥	播種同時側条施肥とし、施肥量は窒素成分で8~10kg/10aとする											施肥機構付きのドリルシーダーを使用する。リン酸・カリの施用は秋播慣行並みとする。追肥は基本的に不要。											
⑤播種	播種期は12月(根雪前)とし、播種量は15kg/10a程度とする。											土壌表面が凍っている早朝に播種すると作業性がよい。播種深度は3~5cmを目標とする。											
⑥除草剤散布	越冬直後に土壌処理剤、または雑草発生始期に広葉雑草対象の茎葉処理剤を散布する。											除草剤に関しては、登録上秋まき栽培に限定しているものがあるので注意する。また、越冬直後の雑草が生え揃う前に処理する土壌処理剤は、融雪後既に出芽している場合は使用しない。											
⑦殺菌剤散布	秋播慣行と同様に実施する。											出穂・開花期は秋播慣行よりも1週間程度遅いので、ステージをよく確認のうえ(特に赤かび病)散布する。											
⑧収穫・乾燥	秋播慣行に準ずる。											成熟期は秋播慣行より2~7日遅い。											

### 4 排水対策を万全に

水稲の刈り取り後、小麦を作付けするほ場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう(→必ず排水路につなげて下さい)。

ほ場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

農作物技術情報第8号は10月25日(木)発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間**  
**農作業 笑顔の豊作 無事故から**

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全に
- ◆ 露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底
- ◆ 雨よけトマト 保温の徹底と裂果の発生防止
- ◆ ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除の徹底  
適期は種と適切な温度管理による品質向上（寒締めほうれんそう）

## 1 生育概況

- (1) 7月以降の少雨、高温の影響により、全般に草勢の低下や生育抑制が見られるほか、害虫が多発傾向です。ここ数日の降雨により、病害の発生も増加傾向にあります。
- (2) 露地きゅうりは、収穫終盤となっているものの、適宜かん水を行っている圃場では草勢も良い状態を保っています。8月下旬以降、褐斑病等の発生が多いほか、枯れ病も例年に比べて発生が多く、枯れ上がる圃場も散見されます。
- (3) 雨よけトマトは、8～9月の高温で収穫が一気に進み、かつてない収穫ピークとなりました。気温低下とともに裂果の発生が増加しており、出荷量は減少傾向です。全般にオオタバコガの被害がみられています。
- (4) ハウスピーマンは、気温低下に伴い果実肥大が遅れる傾向にあり、露地ピーマンでは、草勢の低下、果実肥大の遅れがみられ赤果の発生が目立っています。タバコガの被害が、依然みられています。
- (5) 雨よけほうれんそうは、8月以降の高温により生育停滞やしおれ、枯死が見られます。ハウレンソウケナガコナダニ、アブラムシ類、シロオビノメイガの発生が見られます。
- (6) ねぎは、収穫が継続して行われていますが、乾燥の影響で例年より細い傾向です。黒斑病、アザミウマ類が多発している地域があります。
- (7) キャベツは高温少雨で小玉傾向でしたが、その後の降雨で回復しています。病害虫ではべと病が多くなっています。レタスの生育は順調で1週間程度早まっています。病害虫は少雨により少なくなっています。

## 2 技術対策

### (1) 台風対策

台風18号が接近しています。状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術内容の詳細については、H24.6.19発行の「号外 台風対策」を参照してください。

### (2) 露地きゅうり

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、草勢維持を図りましょう。

8月下旬以降、褐斑病の発生圃場が非常に多くなっています。多発圃場では、収穫残さや支柱、番線、かん水チューブなどに付着した病原菌が翌年の発生源となりますので、栽培終了後は速やか

に残さの片づけや資材の消毒を実施しましょう。

また、本年度株が急に萎れる症状が見られた圃場では、片づける前に根を引き抜いて表面にホモプシス根腐病による黒変症状がないか確認しましょう。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は最寄りの指導機関に連絡し、残さ検診を受けることをお勧めします。

## (2) 雨よけトマト

極端に気温が低下した影響で、裂果の発生が増加しています。

今後、さらに発生しやすい環境が続くことから、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病がしやすくなるので、防除の徹底に努めてください。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉処理の方法は、9月末から10月初めまでの間に写真のように葉を全て摘んだ後、霜が降りる前につる下げし、不織布をべたがけします。低温や霜の影響が回避され、収穫可能な果実が増加するとともに、裂果の発生を減らすことができます。

## (3) ピーマン

雨よけ栽培では、夜間の保温により生育温度の確保に努めましょう。

全体的に赤果やひび割れ果の発生が増えています。特に下り枝に着果している果実は早めに除去し、草勢維持と早期収穫に努めて下さい。また、露地栽培では、斑点病の発生と腐敗果の増加のおそれがありますので、降雨前後にはカスミンボルドー等の散布により発生低減を図りましょう。

## (4) 雨よけほうれんそう

年内収穫のためには種をもう1作検討しましょう。低温伸長性のよい品種を選択し、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行い、年内に確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にするとともに、殺菌剤の予防散布も行ってください。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。近年は夏期にも被害が見られるほ場もあり、発生が周年化しています。今年被害があった圃場では、早期に殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、今年もシロオビノメイガの食害が広く見られます。幼虫は最初、心葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしましょう。

作付け終了後は、来年の施肥管理の適正化のために、土壌診断を受けましょう。

## (5) 露地葉茎根菜類

### ア ねぎ

最終土寄せから収穫までの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながりますので、気象情報を参考にして計画的な作業に努めましょう。



写真1 ホモプシス根腐病による根の状態  
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)



写真2 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする



写真3 シロオビノメイガによる食害 (矢印の部分に幼虫がいます)



病害の発生が多い傾向ですが、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

#### イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

### (6) 冬春野菜

#### ア 寒締めほうれんそう

ハウス栽培では 10 月中旬までが播種時期です。品種の特性に合わせ適期に播種し、次のことに留意して管理しましょう。

保温のし過ぎで生育が進むと、十分な低温に遭遇する前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると収穫サイズに達しないまま冬を越してしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は 12 月～翌 2 月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて、適切な温度管理を行いましょう。詳しくは平成 17 年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

冬期間は、大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは 1 棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

#### イ 伏せ込み促成アスパラガス

気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。地上部が自然に黄化して枯れ上がるようにするため、台風による倒伏などで、茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する見込みです。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の遭遇時間を参考にするなど、適切な時期の掘り上げを心がけましょう（平成 18 年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における 1 年養成根株の掘り取り時期」参照）。

農作物技術情報第 8 号は 10 月 25 日（木）発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9 月 15 日～11 月 15 日は秋の農作業安全月間

農作業 笑顔の豊作 無事故から

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんどうの病害虫防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょ
- ◆ 小ぎくの健全な親株を確保しましょ

## りんどう

### 1 生育概況

今年の彼岸需要期は概ね順調に出荷されましたが、高温の影響で地域や品種によって開花遅れや障害花の発生がみられました。病害虫ではハダニ類が多いほか、リンドウホソハマキは昨年より少ないものの発生が続いています。その他、オオタバコガ、黒斑病の被害がみられています。

### 2 病害虫防除

#### (1) 葉枯病

秋季にも降雨により拡大する可能性があるため、株養成ほ場の防除を継続します。

#### (2) 褐斑病

発生は少ない傾向です。発生のみられるほ場では、有効な薬剤を散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。

#### (3) 花腐菌核病

高温の影響により子実体(きのこ)の形成は遅れています。花腐菌核病は花卉から感染します。10月以降に蕾から花卉が見えている品種は花蕾部への防除が必要です。降雨が続く場合は散布間隔を短くし防除します。発病がみられた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。

#### (4) リンドウホソハマキ

昨年に比べ発生は少ない傾向ですが、茎への侵入による被害の発生がみられています。また、定植一年目のほ場でも被害が発生しています。発生のみられるほ場では、残茎葉の折り取りを確実にし、ほ場外で確実に処分します。

#### (5) ハダニ類

高温乾燥のため、発生が依然として多い傾向です。発生のみられるほ場では、薬剤散布による防除を継続します。

#### (6) アブラムシ類・アザミウマ類

開花中～開花後に特に増加します。これらの害虫は、ウイルス病を媒介する恐れがあることから、収穫後の残花部分は確実に折り取り発生を抑えます。極晩生種でも発生が広がるので薬剤散布に努めます。



定植年のリンドウホソハマキ被害

### 3 収穫後の管理

- (1) 収穫後の圃場は病害虫防除がおろそかになりがちで、病害虫が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。
- (2) 収穫後は花の着いた茎の部分を折り取り病害虫防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。

- (3) 茎葉の折り取りや刈払いは、ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから行います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理な折り取りで株を傷めることがあるので、その場合は春に折り取るようにします。
- (4) 翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草対策を行うことが効果的です。

## 小ぎく

### 1 生育概況

9月咲き品種は高温乾燥により開花の遅れや草姿の乱れ、花蕾の奇形などが発生しました。病害虫では、ハダニ類やアザミウマ類などが依然として多くみられています。また、9月以降、オオタバコガの発生も増え、10月咲き品種への被害もみられています。

### 2 病害虫防除

#### (1) 白さび病

発生は少ない傾向ですが、品種によって上位葉まで発生がみられます。今後、気温が下がり、雨が多くなると白さび病の感染が多くなります。特に、親株に伝搬しないように注意してください。

#### (2) ハダニ類

9月以降も降雨が少なく乾燥した状態が続いたため、ハダニ類の発生が依然多くみられます。これから収穫になる圃場のほか、翌年の親株用に養成している株にも防除を継続します。薬剤散布は葉裏へ十分薬剤が付着するように行います。

(3) 上記の病害虫の他、アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガの発生も続いていますので、防除を継続します。

### 3 親株管理

#### (1) 栽培計画

翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。そのうえで品種構成や作付面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

#### (2) 親株選抜

翌年採穂用の親株は、収穫前の選抜を徹底します。開花期が狙う時期に合っていること、草丈がよく伸び、本来の品種特性を備え揃っていること、葉の枯れ上がりが少ないこと、病害虫に侵されていないこと等を確認して優良な株を選抜します。

#### (3) 親株管理

翌年採穂用に選抜した親株には、収穫後、マルチを剥ぎ順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜台刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また病害虫の持ち込み程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

##### ア 親株の伏せ込み

冬至芽の発生の少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みますが、白さび病などの病害を持ち込むことが非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要となります。

##### イ かき芽利用

冬至芽の発生の遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすく、株での伏せ込みより手間がかかります。

##### ウ 冬至芽利用

揃いが良くなり病気の持ち込みが少なくなりますが、伏せ込み作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない品種には利用できません。品種の特性を十分に理解して、それぞれに適した増殖方法を選択してください。

## ストック

### 1 定植後の管理

#### (1) かん水

蕾が見える頃までは十分にかん水し、草丈を確保します。発蕾後のかん水量が多いと花穂部の徒長や茎の軟弱化を招くので、かん水を徐々に控えます。

#### (2) 温度管理

できるだけ涼しい温度で管理することを心がけます。霜が降りる頃まではハウスを開放しておきます。強風等によりハウスを閉める場合は循環扇等を利用して空気を対流させ、徒長や菌核病の発生を防ぐよう努めてください。

#### (3) 追肥

生育に応じて速効性の肥料を施しますが、草姿の悪化を防ぐため発蕾までに終えます。

### 2 コナガ防除

(1) 生育中の薬剤防除は、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の剤のローテーションでの使用を徹底します。

(2) またハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的です。この場合通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、風通しの悪い場所では注意が必要です。

農作物技術情報第8号は10月25日（木）発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間  
農作業 笑顔の豊作 無事故から

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報

# 第7号

# 果樹

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 「紅いわて」は収穫期をむかえています。
- ◆ りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！

## りんご

### 1 生育状況

#### (1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均でみると、高温小雨の気象条件にもかかわらず、概ね平年並となっています。

#### (2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で平年より果実品質が高く(硬度が高く、糖度は概ね平年並)、熟度が遅れ気味(デンプン反応も高め)の状況です(図1~3)。しかし、早生品種は高温の影響により、着色が進まず果肉先行となりました。10月の気温は平年並みで推移するとの長期予報になっています。今後の気象によって、着色、熟度の進みが変化することがありますので、適切な管理、適期収穫を心がけましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位:mm)

9月21日時点 の生育状況	ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (H24)	前年 (H23)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H24)	前年 (H23)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)
岩手町	89.4	90.6	90.0	99	99	85.7	89.8	83.7	95	102
盛岡市	86.1	87.1	88.9	99	97	85.0	82.0	82.8	104	103
紫波町	82.4	82.9	90.4	99	91	88.4	82.2	85.6	108	103
花巻市	84.8	89.0	89.8	95	94	83.1	80.2	81.7	104	102
農研センター	85.1	81.5	90.3	104	94	83.5	81.2	84.1	103	99
北上市	92.7	83.7	91.8	111	101	89.1	83.7	85.9	106	104
奥州市前沢区	89.0	78.8	88.1	113	101	84.9	83.9	85.2	101	100
奥州市江刺区	88.8	84.0	89.7	106	99	76.2	79.0	82.0	96	93
一関市花泉町	90.5	87.6	88.7	103	102	80.7	83.2	81.6	97	99
一関市大東町	90.4	88.5	87.4	102	103	79.8	84.5	83.5	94	96
陸前高田市	87.5	85.6	87.8	102	100	79.6	82.9	82.6	96	96
宮古市	93.8	90.7	91.7	103	102	84.4	88.9	84.7	95	100
岩泉町	92.3	93.3	86.4	99	107	79.8	81.6	84.4	98	95
洋野町大野	88.9	94.7	88.9	94	100	88.0	80.7	81.5	109	108
軽米町	90.9	88.0	90.4	103	101	80.9	81.0	79.9	100	101
二戸市	86.2	79.7	90.2	108	96	83.9	85.1	85.0	99	99
県平均(参考)	88.9	86.9	89.3	102	100	83.3	83.2	83.3	100	100

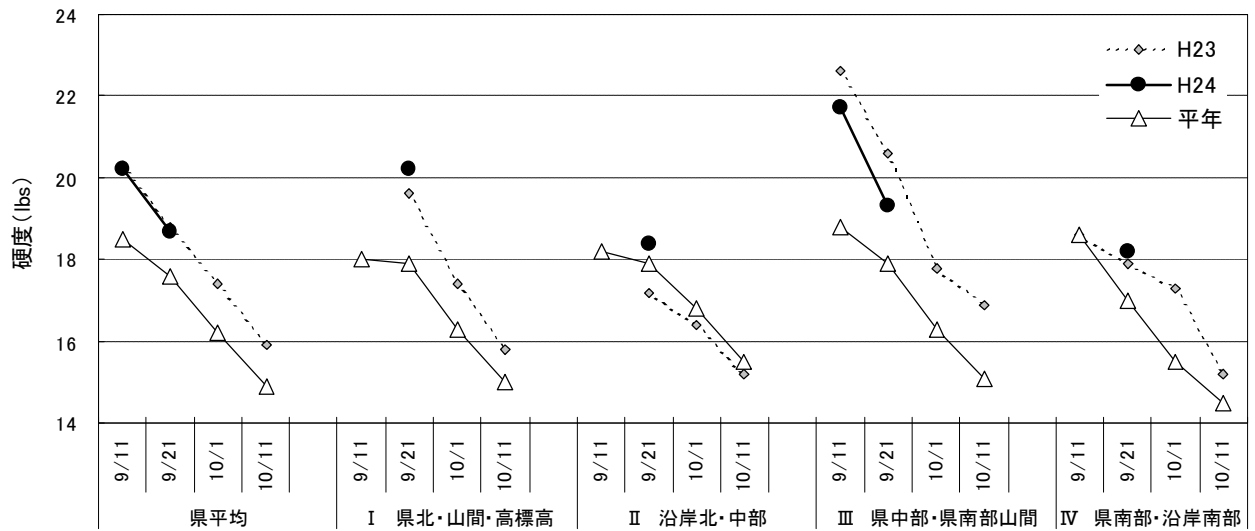


図1 ジョナゴールドの硬度の経時変化

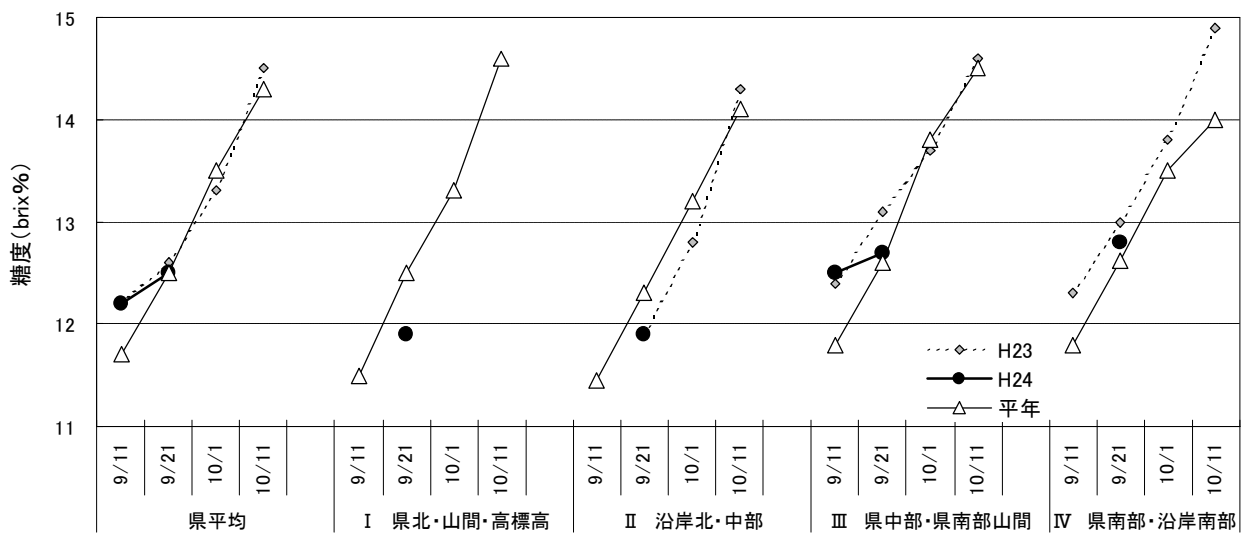


図2 ジョナゴールドの糖度の経時変化

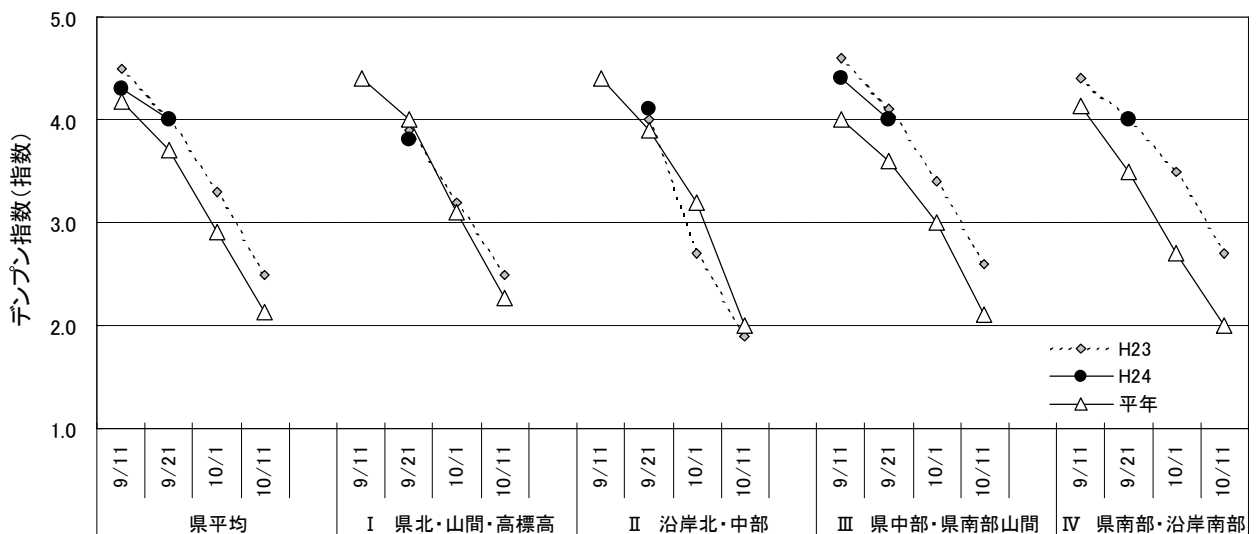


図3 ジョナゴールドのデンブンプン指数の経時変化

## 2 管理作業

### (1) 「紅いわて」の収穫

ア 「紅いわて」はすでに収穫期をむかえています。本年のような高温・乾燥条件では早期の果肉軟化やみつ症等の障害が発生する可能性があります。

イ 表2の収穫の目安を参考に食味を確認して収穫期を判断し、採り遅れがないようにしましょう。

### (2) 中生種の管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。

イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みにならないよう注意します。

ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。

エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう（表3）。

### (3) 「ふじ」の着色管理

ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表4）。

表2 本年の「紅いわて」の収穫時期について

(基準値: 農業研究センター: 北上市)

デンプン反応指数	指数2以下
満開日起算日数	135～140日(9月20日～9月25日)

表3 中生・晩生種の収穫開始期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)
ジョナゴールド	145～155日	13以上	13以上
王林	160～170日	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	15程度	15以上
ふじ	165～180日	14以上	14以上

表4 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響(青森りんご試)

処理区分	果周の 増加量 (mm)	糖度 (%)	みつの 発生 (%)	着色	翌年の開 花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新しう葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無処理	7.40	14.9	86	4	66.6

### 3 気象災害対策

#### (1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

#### (2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

農作物技術情報第8号は10月25日(木)発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間  
農作業 笑顔の豊作 無事故から

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。



**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

# 農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成24年 9月27日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 維持草地では、刈り取り危険帯の時期を避けて収穫、施肥します。
- ◆ トウモロコシは、完熟期に近い圃場も見受けられるので、熟期を確認し速やかに収穫作業を進めます。

## 1 維持草地の管理（刈り取り危険帯の時期）

- (1) オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で日平均気温が 15℃くらいになると、茎葉の再生が緩慢となり、根への貯蔵養分の蓄積が始まり、越冬と翌春の萌芽・再生に備えます。また、日平均気温 5℃以下で休眠に入ります。この根への養分蓄積が活発になる時期が、刈り取り危険帯の時期です。この時期の刈り取りや窒素施肥(堆肥の多量施用も含む)は、再生を促し、根に養分が十分に蓄積せず、越冬株数や翌年の収量が減少するので、この期間を避けて行います。
- (2) 刈り取り危険帯の時期の目安は、下表を参考にしてください。

地域別の日平均気温(平年値)と刈り取り危険帯の時期の目安

	刈り取り危険帯の時期の目安	参考	
		平均気温が 15℃以下となる日	平均気温が 5℃以下となる日
奥中山	10月上旬～中旬	9月22日	11月10日
盛岡	10月中旬～下旬	10月3日	11月19日
久慈	10月中旬～下旬	10月4日	11月23日
江刺	10月中旬～下旬	10月6日	11月21日
一関	10月下旬～11月上旬	10月10日	11月26日

\*アメダスより

## 2 トウモロコシの収穫調製

黄熟期(農作物技術情報第6号を参照)を確認して作業に入りますが、完熟期に近い圃場も見受けられますので、以下に留意し収穫調製を行います。

なお、市町村単位に飼料用トウモロコシ等夏作飼料作物の利用自粛の要請と解除が行われていますので、放射性物質検査結果を確認してから利用するようにしてください。

- (1) 完熟期では、子実が硬く、また詰込水分がやや低くなりますので、破碎処理を行わない場合は、収穫時の切断長を 10mm 未満とし、子実の消化率を確保すると共にサイロへの詰込密度を高めます。また、完熟期で破碎処理を行う場合は、切断長 19mm、ローラ間隙 3mm が推奨値です。
- (2) 刈り遅れや霜にあたった場合、すす紋病等の罹病が多い場合は、水分含量が低く、サイロへの詰め込み密度が低下することから、開封後、二次発酵が起こりやすくなります。ギ酸やプロピオン酸などの添加剤の使用を検討しましょう。
- (3) 刈り遅れた圃場では、カビが増殖している場合があります。このサイレージを開封し給与するときは、カビの有無をよく確認し、カビは取り除くとともに、ビタミン給与量を増やすことや、カビ毒吸着剤の使用を検討します。
- (4) その他

熟期に限らず、倒伏や折損の収穫調製では、次の点に留意します。

ア できるだけ早く収穫します。

イ 収穫にあたっては、ハーベスタの収穫方向をよく考え、作業機の運行速度を控えめにします。また、やや高刈りして収穫時の土壌の混入を避けましょう。

- ウ 切断長が粗くなりやすいことから詰込み密度を確保するために、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質低下を抑制しましょう。
- エ 黄熟期前の収穫となる場合は、乳酸菌製剤の添加を検討します。

農作物技術情報第8号は10月25日(木)発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間**  
**農作業 笑顔の豊作 無事故から**

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。